

行財政改革推進委員会 事前質問・意見等一覧

(確定)

No	資料	頁	委員名	意見・質問等	回答	担当部局
1	資料	2	一條委員	<p>【意見】 資料:大綱(案)P2ほか 『「選ばれる青森県」への挑戦』という計画名にとっても好感が持てました。「(県民も行政も)選ばれるためには様々な努力も必要ですが、さらに斬新なアイデア・イノベーションが必要なので、一緒に頑張りましょう」と伝えているのだ、と勝手に考えてしまいました。どんな時代でも、県(行政)から発信されるメッセージは、力強く前を向くイメージであって欲しいと思っていますので、「選ばれる」「挑戦」には、まさに未来への期待を感じました。</p>	— (意見)	企画政策部
2	資料	3	鎌田委員	<p>【質問】 資料:大綱(案)P3 III 行財政改革によりめざす姿の2では、「…市町村と適切に役割分担するとともに、企業、各種団体、大学等の得意分野を活用するなど、地域のより多くの主体と連携・協働する…」とありますが、地域のより多くの主体＝企業、各種団体、大学等なのか、それとも＝得意分野なのか、ややわかりにくさを感じます。説明をお願いします。</p> <p>IV 行動指針では、「市町村、民間、大学など地域の多様なパートナーとの連携を進め…」とありますが、とらえようによっては、市町村、民間、大学などが連携しているパートナーとの連携といったようにも思えます。</p> <p>また、民間という表現がされていますが、民間とは何を指すのか分かりにくいと思います。もちろん何度か説明されているように＝民間企業、あるいは団体、一般県民だとは思いますが、この先の予定として、この大綱が県のHPで紹介されるに当たって気になることを述べました。</p>	質疑 応答	総務部 (行政経営管理課)
3	参考資料	3	武田委員	<p>【質問】参考資料:素案からの修正状況 「青森県庁版BPRの目的」に係る修正(大綱(案)P5)について 修正前にあった「業務のムダを見直すこと」は、外部環境の変化等に伴い新たに必要となっている仕事に取り組むために、必要性が薄れている仕事を洗い出して取り止める(scrap&built)ことを示した表現であり、これまでの委員会での事務局説明や委員間意見交換の趣旨に沿ったものと認識しています。</p> <p>修正後の表現では、こうした趣旨の表現が含まれていないように思いますが、何故、このように変更されたのかの意図をご説明いただけますでしょうか。</p> <p>同じ個所について、「付加価値の高い業務に振り向ける」という表現に「政策立案業務等」という例示を追加したのは、より分かりやすくしようとの趣旨でしょうか。ただ、この例示を追加することで、人的資源を振り向ける対象が、「政策立案業務」およびこれに準じた業務に限定されてしまう恐れがあるように思います。「付加価値の高い業務」としては、前述のように腰を据えてBPRを推進するとか、将来的な省力化を展望して機械化実務を推進するといった、必ずしも「政策立案業務」には含まれない業務もあり得るように思いますが、この点に関しての見解をお示しいただければと思います。</p>	質疑 応答	総務部 (行政経営管理課)
4	資料	6	内村委員	<p>【意見】 資料:大綱(案)P6 I リスクマネジメント 現状において職員の不祥事が急増しているということではないと思われるが一定の処分が報告されている。改革には必然的に業務の複雑化、高度化が伴うと思われるため、研修と合わせ職員の健康・メンタルヘルス対策等についても並行して強化し、職員の健康が損なわれたり県政に対する批判により評価が減ることのないようにして頂きたい。</p>	— (意見)	総務部 (人事課)
5	資料	10	内村委員	<p>【意見】 資料:大綱(案)P10 II 県財政の状況 基金も県債も主張点を明確にするための年度を引用していると思われるが、ここ数年行財政改革により一定の成果を上げて来たことは全く感じられない比較になっている。もう少し近年の成果が分かる説明も加えて頂きたい。</p>	— (意見)	総務部 (財政課)